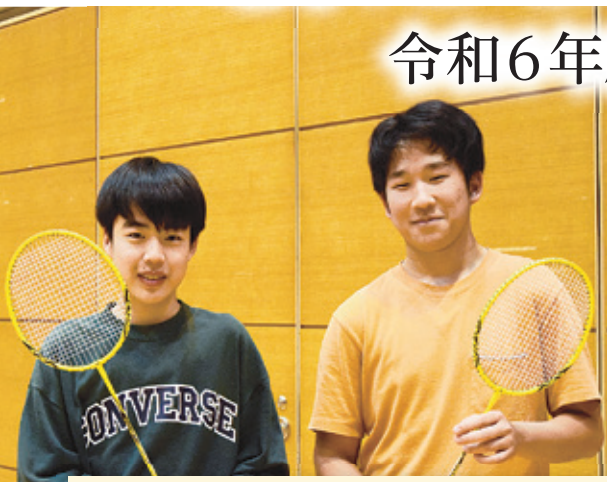




# 市民一人ひとりの幸せのために 新たな浦安を切り拓いて

令和6年度の主な事業と予算をお知らせします



## 令和6年市議会第1回定例会の冒頭で内田市長が述べた施政方針の要約

令和6年度は、国の「デフレ完全脱却のための総合経済対策」が進捗していく中、本市のさらなる成長と飛躍に向け、効果的な施策を展開する絶好の好機であると捉えています。

埋立地における開発が最終盤となり、成熟期を迎えた本市が持続的に発展を続けるためには、まちを開発する「量的拡大」から、市民の心の豊かさにつながる「質的充実」を追求する方向に軸足を移していくことが重要であると考えています。

今日の前にある懸案課題に向き合いながら、10年、20年、さらにはその先の未来を見据え、市民一人ひとりの幸せのために全力で挑戦を続ける市政運営を力強く邁進していきます。

先般発生した能登半島地震を受け、自然災害の脅威を改めて認識し、災害から市民の生命・財産を守ることが、行政運営の第一目一番地であると痛感しました。自助・共助・公助が互いに補完・連携し、地域防災力の向上を図ると

もに、治水や耐震化、都市の防災機能や消防体制の強化など、防災・減災・応災を基盤としたまちづくりに努めていきます。

福祉や医療、教育などは、本来、地域間格差が生じないよう国において一律に行政サービスが提供されるべきですが、自治体ごとに格差が生じている現状です。引き続き国や県に対し要望していくとともに、財源を無駄なく適切に配分し、首都圏屈指の住宅都市にふさわしい行政サービスの提供に努めていきます。

子育て世帯の育児などへの不安、高齢者の単身世帯増加に伴う社会的孤立など、家族や地域社会が抱える課題が多様化、複雑化していくと見込まれます。そのため、子どもから高齢者まで切れ目のない包括的な支援体制の充実を図るとともに、世代や分野を超えた多様な主体がつながり支え合い、誰もが自分らしく生き生きと生活できる地域社会を創造していきます。

アーバンリゾートゾーンでは、テーマパーク

に新たなエリアがオープンすることにより、さらなるまちのにぎわいが生まれる一方、滞在人口の増加に伴う消防・救急体制など、行政需要への対応が必要です。本市が魅力あるまちとして発展していくため、新たな財源を確保し、市民が誇れるリゾートと市民生活との調和を図っていきます。

時代とともに、今までの枠組みや価値観、さらには常識さえも変わっていきます。そのような中でも、決して変わらない確固たる私の「信念」、それは「市民の幸せのために」ということにほかなりません。この揺るがない信念を常に胸に刻み、真に市民の幸せにつながる施策を実行し、まちづくりの主人公である市民の皆さまとともに、浦安の新たな未来を切り拓いていく所存です。

施政方針の全文は市ホームページでご覧になれます